

# マスタープラン



高松空港株式会社

# アジア・世界とつながる、四国瀬戸内No.1の国際空港

複数のLCCの拠点化を進め、旅客数307万人を達成

＜将来イメージの実現に向けて＞

- LCCの拠点化に向けたエアポートセールス
  - 潜在需要の大きな海外・首都圏をターゲットとした航空需要の取込み
  - 空港使用料の低廉化と受入環境の整備
- 魅力的な商業施設、エアライン誘致のための原資づくり
- 長期にわたる安全・安心の空港インフラ経営
- 地域のベストパートナーとなり、地域の魅力を向上

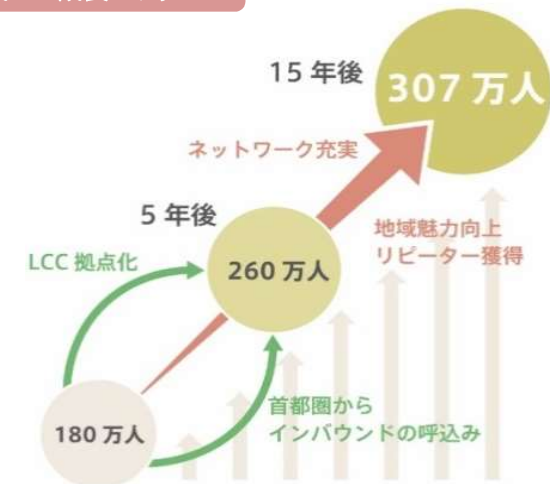


旅客数 **307** 万人 (国内 225万人、国際 82万人)  
 路線数 **13** 路線 (国内 6 路線、国際 7 路線)  
 便数 国内 **23** 便/日、国際 **51** 便/週  
 貨物量 **1.7** 万トン

## 旅客数・貨物量の目標値

	2015年 (現在)	2022年 (5年後)	2032年 (15年後)
旅客数	180 万人	260 万人	307 万人
国内	165 万人	209 万人	225 万人
国際	15 万人	51 万人	82 万人
貨物量	0.6 万トン	1.3 万トン	1.7 万トン

## 307万人達成への成長ステップ



ターゲット設定

国内線

- LCC拠点である幹線空港（新千歳・成田・福岡等）への新規就航・増便
- 羽田路線の機材大型化

国際線

- 台北・上海・ソウル・香港路線のデイリー化
- 東南アジア（タイ・シンガポール）への直行便の新規就航



料金施策

- 四国瀬戸内エリア最安値の料金設定
- LCCの就航意欲を喚起する料金割引
- エアラインと空港とのリスクシェア

エアラインマーケティング

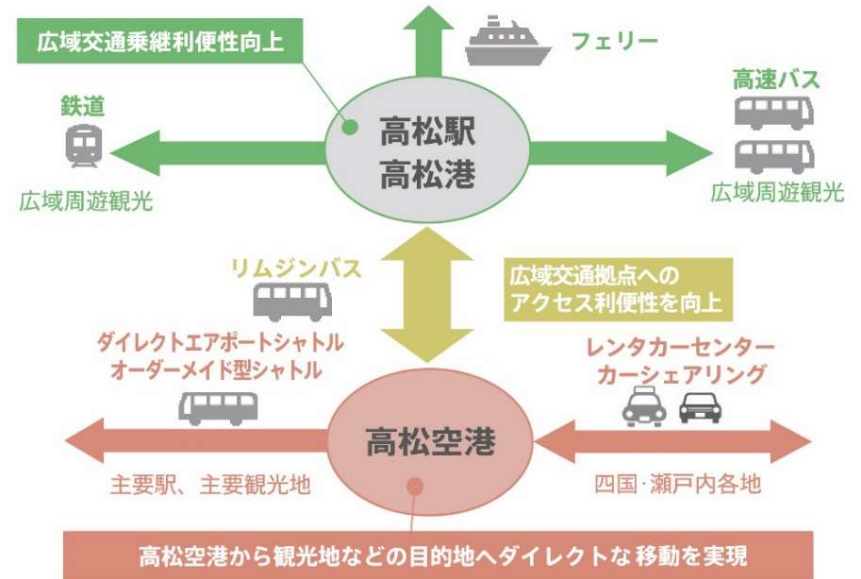
- 就航時に必要な各種調整事項のワンストップサービス
- 海外空港オペレータと連携したエアライン誘致
- クリーンエリアへの早期の旅客誘導による、定時運航への貢献

ボトルネックの解消

- 搭乗ゲート・スポットの拡大（6スポット → 8スポット）
- LCC対応のスポット・搭乗施設の新設
- 国際線手荷物受取場の処理能力の拡大（同時対応 1便 → 2便）
- 駐車場容量の拡大（約1,000台 → 約1,300台）

空港アクセスの強化

- 高松空港と高松駅・高松港のアクセスを強化し、個人旅行者等の利便性を向上
- 高松空港から観光地へのアクセス性を高め、広域周遊観光を促進



長期の安全・安心な空港インフラ経営

安全・保安に関する基本施策

- 出資者および協力会社の知見を活かした、盤石な実施体制の構築、国業務の確実な引継ぎ
- 上下一体運用の推進や出入管理などの新たな安全・保安向上策の導入による、安全・保安レベルの向上

安全・保安に関するセルフモニタリングの基本方針

- 内部(担当部)、半外部(出資者および協力会社)、外部(第三者)の視点から、3層のセルフモニタリングを実施
- PDCAサイクルに則り、安全・保安に関する業務クオリティを維持・改善

事業実施体制

- 円滑な事業承継を最優先とした実施体制の構築
- 安心安全と持続的な成長の両立を可能とする要員配置と支援体制
- 運航情報官・保安防災・施設運用が一体となったオペレーション体制
- 安全を最優先とする企業文化の醸成と教育制度の整備

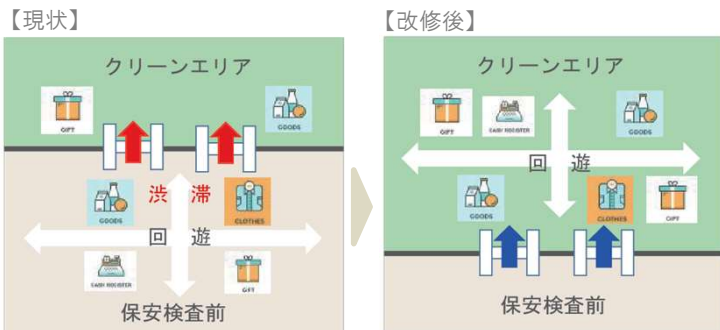
設備投資

- 安全性の維持、要求水準の遵守を「マスト」とし、効率性も兼ねる「ベスト」な設備投資



旅客ビル施設

- 四国瀬戸内ブランドを発信する物販・飲食店舗の拡充
  - ・地元食材を使用したメニューを提供するフードコート
  - ・香川、四国、瀬戸内の名品を集めた土産店舗
- クリーンエリア内商業スペースを拡大し、搭乗時刻の直前まで楽しめる空間づくり
- 時間帯により変化する顧客ニーズに応じた商品・サービスの提供
- 免税店舗の拡張
  - ・ウォークスルー型免税店舗



フードコート(クリーンエリア内)のイメージ



屋外での賑わい創出

- イベントスペースの設置
- 空港内アクティビティ施設の設置
- 周辺公園との連携



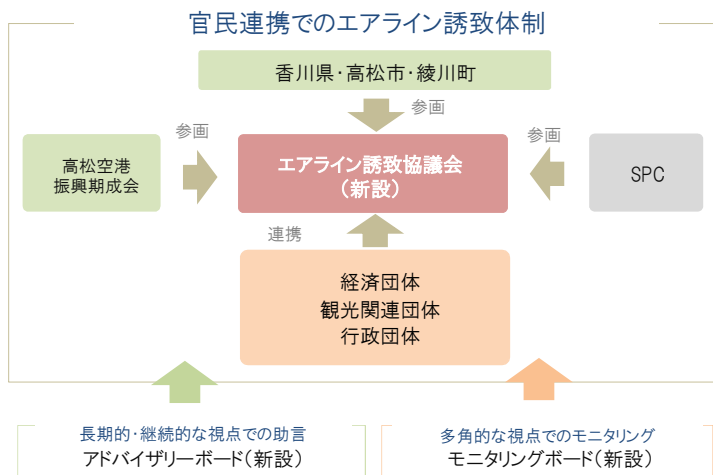
空港利用促進

基本方針

- 官民が連携した幅広い地域アライアンスの形成、航空ネットワーク・航空需要の拡大

具体的施策

- 各種評議会・ボードの設置による、関係地方自治体との連携体制の整備
- 関係地方自治体・その他の公的機関との連携による、空港の利用促進に向けたプロモーションやエアラインへの営業活動



地域共生

基本方針

- 地域共生事業への真摯な取組みを行い、地域住民・周辺地方自治体の負担・不安を軽減
- 地域住民から空港が近くにあったと感じてもらえる取組みなどによる「地域から愛される空港」づくり

具体的施策

- 地域共生の担当者を配置し、地域の声を反映した地域共生事業の実行
- 周辺地方自治体の要望に対応した助成要領への見直し
- 旅客数の増加を見込み、地域共生事業の予算を増額させ、地域の負担・不安を軽減
- ワークショップの開催や地域活動の支援による、地域から愛される空港づくり

基本方針

航空サービス利用者

- 空港満足度調査により、「四国瀬戸内No.1」を達成
- 空港での旅客1人あたりの商業売上2,300円を達成

航空サービス利用者以外

- 空港満足度調査により、一般空港利用者の総合顧客満足度「四国瀬戸内No.1」を達成
- 一般空港利用者を主なターゲットとした事業において、年間売上高5億円以上を実現

具体的施策

分かりやすさ

- インフォメーション機能の強化(到着階)
  - ・多言語対応、チケット販売、二次交通案内等
- サインや動線の見直し

快適性

- スムーズな搭乗をサポートする保安検査ブースの増強
- 旅客の多彩な過ごし方を可能とするゾーニング
  - ・空港ラウンジ、ライブラリー空間の新設等
- 国内線・国際線出発ラウンジの快適性向上
  - ・家具等の入替、リニューアル等

到着階(1階)のイメージ



空港ラウンジのイメージ



設備投資

機能維持を目的とする  
設備投資

15年間の投資総額:73億円

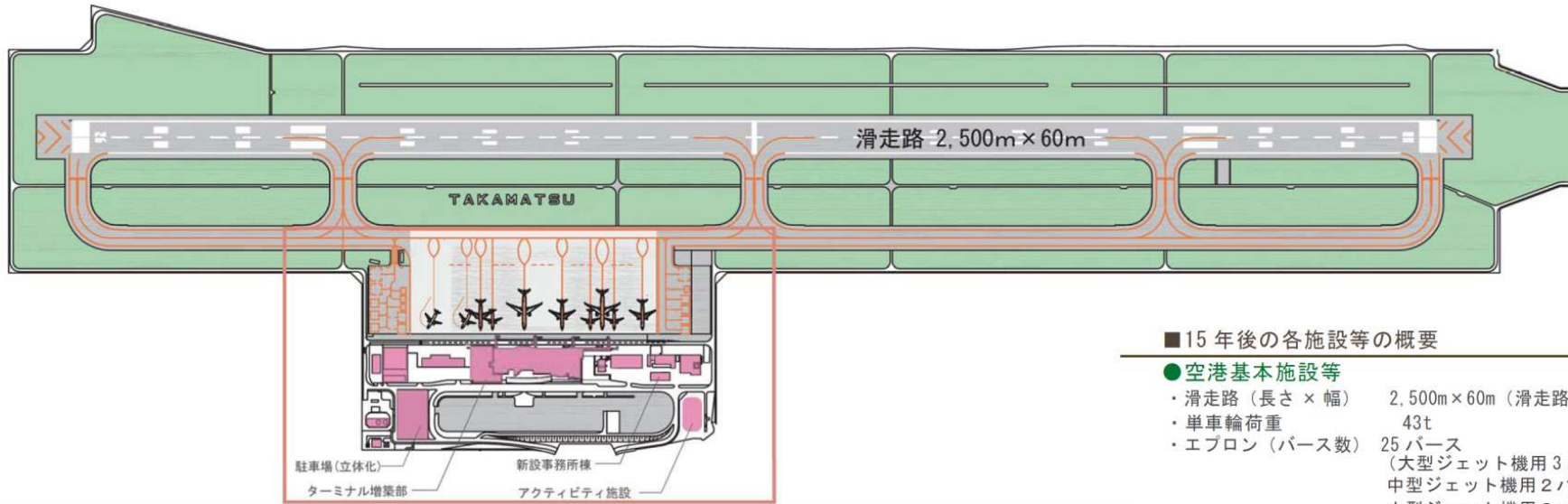
- 空港基本施設
  - ・更新35億円
  - ・修繕21億円
- ビル施設
  - ・更新12億円
  - ・修繕5億円

空港活性化を目的とする  
設備投資

15年間の投資総額:78億円

- 空港基本施設
  - ・更新14億円
  - ・修繕0.2億円
- ビル施設
  - ・更新58億円
  - ・修繕1.4億円
- 任意事業施設
  - ・新設4億円





■ 15年後の各施設等の概要

● 空港基本施設等

- ・滑走路 (長さ × 幅) 2,500m × 60m (滑走路番号 08/26)
- ・単車輪荷重 43t
- ・エプロン (バース数) 25 バース  
(大型ジェット機用 3 バース (1 バース)、  
中型ジェット機用 2 バース、  
小型ジェット機用 2 バース (6 バース)、  
小型機用 (18 バース))
- ・ ILS 施設  
カテゴリー I (滑走路 26 側)

● 旅客ビル施設

- ・構造・規模：SRC 造
- ・延床面積：約 20,400 ㎡
- ・1 階到着ロビー階：約 9,800 ㎡
- ・2 階出発ロビー階：約 9,700 ㎡
- ・3 階：約 900 ㎡



旅客ビル施設の外観イメージ

● 貨物ビル施設

- ・構造・規模：軽量鉄骨造
- ・延床面積：約 1,860 ㎡

● 事務所棟

- ・構造・規模：S 造・2 階
- ・延床面積：約 1,200 ㎡
- ・1 階休憩室・倉庫：約 600 ㎡
- ・2 階事務所：約 600 ㎡



旅客ビル施設の内観イメージ

● 駐車場 (立体化)

- ・構造・規模：S 造 2 階
- ・延床面積：約 8,000 ㎡

● アクティビティ施設

- ・構造・規模：S 造・1 階
- ・延床面積：約 650 ㎡

